

## 福井大学学術交流協定校への派遣留学(交換留学)月例報告書 (12月分)

留学先大学: Chulalongkorn University

氏名: 井口 健

### <前期終了>

タイに来てから5ヶ月があっという間に過ぎ前期が終了しました。これだけ時の流れを早く感じるのは、留学中の日々の刺激、慣れない環境での生活もあると思いますが、一番は季節感がないことだと思います。日本が秋や冬の時期でもタイはずっと同じ気温と同じ日の長さで、12月も一年が終わるという実感がほとんどないまますぎて行きました。そんな中、唯一時の流れを感じたのが期末試験と他の留学生の帰国です。期末ではテストが三つとプレゼン、レポートが一つずつありました。どれもなかなかハードで心も折れそうになりましたが、深夜までカフェに籠ったりしてなんとか乗り切ることができました。そして期末が終わってから約2週間の間に、留学開始時から一緒に頑張ってきた他の留学生は次々に帰って行きました。福井大学からアサンプション大に留学していた板谷さんも帰国ということで、みんなでお別れ会をして見送りました。今まで一緒に過ごしてきた仲間がいなくなるのは悲しいことではありますが、それと同時にまた来期にたくさんの人に出会えることを期待したいと思います。

### <ヨーロッパ旅行>

年末はヨーロッパ旅行でフランス、ベルギー、ドイツ、オランダに行ってきました。ヨーロッパはムカつくこともたくさんありましたが、その分まったく違う文化、人種の人が暮らす土地を観光することは自分にとってとても刺激的でした。まず衝撃的だったのが、パリの駅を出て一番最初に声をかけてきた人が「マリファナ、コカインいるか? (フランス語)」と言ってきたことです。いらんわ!と日本語で追い返して急いでホテルまで行き、その後荷物を置いて出かけた駅で今度はスリの現場に居合わせました。2日目も勝手に高い電車のチケットを買って渡そうとしてくる詐欺師に会いましたが、予習のおかげでなんとか回避できました。とりあえず最初のパリの印象は「やばい場所やな」の一言でした。それでも観光地を巡って美しい建物や芸術作品を見たり、他の観光客と仲良くなっていくことで後半はかなり楽しめたと思います。

そのあとはベルギーのブリュッセルに移動し、5時間しか滞在できませんでしたが、頑張って観光名所を巡ってお土産を買うことにも成功しました。というのも当

初ブリュッセルに1月2日まで滞在する予定だったのですが、パリで一人旅がいかに孤独であるかに気づき、ドイツのハンブルクまで言って西澤と織田に会おう！と急遽予定を変更したのでかなりタイトなスケジュールになってしまいました。しかし、わずかな滞在時間の中で、お土産屋さんのお姉さん、おじいちゃん、駅の使い方をきいたらホームまで案内してくれたお兄さん、バスで隣に座ってこっち眠いのにめちゃくちゃ話しかけてくるトルクメニスタン人のおじさんなど面白い出会いがたくさんありかなり印象的な旅先の一つになりました。

ただらと旅行日記を書く訳にもいかないのでダイジェストでお送りすると、ハンブルクでは西澤と織田と一緒に日本時間で年越しを祝うことができ、さらに日本人留学生のパーティーに飛び入り参加してドイツ時間でも街に上がる花火とともに年を越すことができました。1月3日からは西澤とオランダに行って、一人旅と複数人旅行の一番の違いはレストランやカフェに入って美味しいものを食べられるかどうかの違いだと気づかされました。そんなこんなで楽しいことも苦しいこともたくさんあり最後には風邪も引きましたが、また知らなかった世界を知る経験を一つできたのでとても有意義な年末年始になりました。航空券代などでスポンサー協力してくれた父には帰ったらもう一度しっかりお礼を言いたいと思います。

#### <後期の過ごし方>

正直、前期で自分が何か成長したかと言われれば特に何も変わっておらず、それはおそらく大した目標も持たずに自分を追い込んでいなかったからだと思います。後期の目標はすでいくつか決めてあるので、その達成を第一に前期より充実した日々を送れるよう精進します。

(写真はハンブルクの街並みとアムステルダムでの記念撮影です。)

